

公開講座 里山林の多面的機能と持続的利用

九州大学農学部附属演習林福岡演習林

九州大学福岡演習林では、福岡県の小学校、中学校、高等学校の教員を対象にした公開講座を福岡県教育センターと連携して開催しています。この講座では、広葉樹二次林、針葉樹人工林など様々な森林の観察と植生調査、土壌調査などの体験を通じて、森林の機能や環境問題について考えます。森林を対象にした観察や観測データをもとにした議論を通じて、自然を理解する方法を習得し、各自の教育活動に反映させることが本講座の目的です。講座では、15名の参加者が3つのグループに別れ、二日間にわたり、里山について知っていること、里山を歩いて分かったこと、里山を調べて分かったことを整理していきます。

まずは、「里山とは何か？」について関連するキーワードを挙げるブレインストーミングから始めます。樹木や森林にほとんど馴染みがない受講生もいますので、現場に出る前に講義室で、図鑑を用いた樹種同定を行うことで、樹木に触れ、生物の種や形の違いを認識する作業を行います。この段階で初対面同士の受講生の会話が活発になってきます。次に「生態系の構造と機能」についての簡単な講義をした後、演習林内の様々な森林を見学し、里山の実際を理解します。講義や見学では、野外作業の危険性や安全対策などについても知識の習得と理解を進めます。なお、講義や見学中の質疑応答は活発に行われ、受講生の関心の高さと熱心さを感じることができます。見学後は里山を歩いて分かったことをまとめます。

二日目は毎木調査と土壌調査を行います。広葉樹二次林(里山)とヒノキ人工林で調査を行い、両者を比較することで里山の特徴を理解します。調査前には測定器具を使った練習を十分に行うことで、調査の精度と効率を上げます。毎木調査では調査プロット内に出現する木本の胸高直径、樹高を測定し、土壌調査では林床の有機物の蓄積や含水率の測定、土壌断面の観察などを行います。取得したデータを各グループでまとめ、二日間で学んだことをもとに「里山林の多面的機能と持続的利用」についてグループディスカッションを行います。



写真1. 里山試験地(広葉樹林の皆伐試験地)の見学



写真2. 二次林での毎木調査